

○教皇フランシスコ、キリスト教徒の迫害がニュースに出ないと歎かれる○

Zenit バチカン、2016年3月7日

教皇フランシスコはこの日曜日（3月6日）、アンジェラスの祈りの後で、「私は、イエメンで「高齢者介護」の仕事をしていた四人のシスターたちの殺害のため喪に服している神の愛の宣教者会の会員たちに寄り添っていることを再度繰り返したい」と弔意を表された。そして、彼女たちのためとこのテロの犠牲となった他の被害者のため、またその家族のために祈っていると付け加えられた。アデンで先週の木曜日に起こったこのテロはマザー・テレサの修道会の4人の他に、その施設にいた12人の命を奪い、サレジオ会の司祭一人 Tom Uzhunnalil を拉致した。教皇は「この人たちは今日の殉教者です」と言い、「これらの事件が新聞の一面に載らない。ニュースにならないのです」と歎かれた。

教皇はさらに教会のために血を流したこれらの人々は、殺人者によってだけでなく、「グローバル化した無関心」によっても犠牲となったと指摘された。「マザー・テレサが、愛の殉教者である彼女たちに付き添ってくれますように。そして、人間の命が敬われる平和な社会のために神に取り次いで下さるように」と祈られた。

拉致されたサレジオ会員の Tom Uzhunnalil 神父（インド人）は、アデンの施設で働いていた。同会の総長代理のフランシスコ・セレダ神父によれば、「状況は今も不透明で、我々の兄弟に何が起こって今どこにいるのかについて、詳しいことは何もわかっていない。ただ、サレジオ会関係者は当地の当局と接触をしている」。さらに「拉致された兄弟が早く我々の元に戻ってきて、現在従事している価値ある奉仕の仕事の続けることができるよう」祈っていると云った。

また、同代理は修道女と他の人々の命を奪った「無意味な暴力」を非難し、キリストが「流された血の一滴一滴を平和という実りをもたらす種に変えてくださる」とコメントした。

「最も貧しい人々への奉仕を自己の使命とし聖性への道としたドン・ボスコとマザー・テレサのように、分裂と貧困によって深い傷を負わされた場所に留まることは、キリストのメッセージへの信仰を証しする」と同声明は結んでいる。

参考。このニュースについては Christian Today の下の記事に詳しい。

<http://www.christiantoday.co.jp/articles/19720/20160308/yemen.htm>